

2023年度 自己評価・学校関係者評価報告書

2024年 3月31日

学校法人聖十字学園

幼保連携型認定こども園聖十字幼稚園

1. 本園の保育教育目標

愛のうちに喜びをもって生き、自分の力で発見し、つくり出しつつ、みんなと共に伸びゆく子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標

目標1 《本園の良さを伸ばす具体策》

- ① 本園の特色であるキリスト教教育保育の大切さを改めて考えつつ活動したり、生活したりする
- ② 子どもの育ちに合った活動内容や、子どもが主体になって取り組める活動を増やしていく
- ③ 一人ひとりの子どもの表情や言葉や態度などにしっかりと向き合い、「その人を聴く」ことを大切にする
- ④ 命を尊ぶキリスト教幼稚園として、常に安全点検を行い、子どもたちが安心安全に過ごせる環境を創り出す
⇒・保育部と教育部の連携により園活動や行事を進めることができた
 - ・お話の時間を重視し、特に視聴覚教材の活用に努めたことでイメージの世界が豊かになった
 - ・コロナの5類移行後、園児同士や保護者同士、地域等と交流の機会を増やしたのは良かった
 - ・環境や衛生面で情報共有したり、気づいたことを話題にできたことが、安全管理につながった

目標2 《本園がより良くなるための改善策》

- ① 「危機管理能力」をチームワークで高めていく
- ② 子どもが主体の教育保育の実現を目指す
- ③ 保育者の質の向上と教育保育の質の向上に努める
⇒・行事や活動内容を、例年通りではなく、ねらいをしっかりと意識して見直せるとよい
 - ・大切なことは職員全員が把握する必要性を感じるが、対応のために職員数が増えるとよい
 - ・自分のやり方にとどまることなく、他園を見学したり、保育技術を身につける研修等に参加する
 - ・短期間で活動や行事を組み立てがちだが、より長い期間（例 期、年、入園から卒園）を見通す

3. 教育・保育面での評価項目の評価、および、取り組み状況と課題

(A…達成した B…おおむね達成した C…どちらともいえない D…改善が必要である)

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育の計画性	B	聖十字幼稚園が大切にしている保育実践をまとめた『教育保育指針』を作成した。保育者の意見や望みを織り込んだ内容となっており、活用に努めたい。「保育環境まつもと指標」への参加を通して本園の課題が明確化してきた。
2	保育のあり方、乳幼児への対応	B	「不適切保育」について、他人事ではなく自分事として捉えられるよう、職員全員がセルフチェックリストに沿って振り返りの機会を持った。『子ども』についての学びをさらに深め、丁寧な教育保育を心がけたい。
3	保育者としての資質と能力	A	様々な経験・能力・得意分野の保育者が教育保育にあたっているが、共通するのは、乳幼児の成長を自分の喜びと感じ、乳幼児と一緒に生活を創り出すことが楽しいという感性をもっていることだ。さらに専門性を高めたい。
4	保護者への対応	A	『コロナ』の5類移行をきっかけに保護者の来園の機会を増やしたが、園生活の様子が見え易くなったと同時に、保護者同士の交流も持てるようになった。「見える化」は、園と家庭との助け合いや信頼関係を結ぶのにプラスになった。
5	地域の自然や社会との関わり	C	地域にある良い物や場所などの鑑賞や、地域の方との交流を計画していたが、天候（警報発令）や交流相手の都合等により実現には至らなかった。
6	研修と研究	B	昨年度と比較して厳しい評価になっているのは、研修を重ねた結果であり、現状が見えてきたからだ。これこそ研修の実りと言えるが、学びを実践したい。

総合的な評価結果 B

委員会次第

1. 学校関係者評価委員自己紹介
2. 2023年度事業報告(資料1 参照)
3. 2023年度教育保育自己評価結果報告(資料2 参照)
4. 2023年度保護者アンケート集計結果(資料3:保育部、資料4:教育部 参照)

5. 意見交換、質疑応答

委員A・昨年度と比べると、先生方がマスクを外されて笑顔も声も出ていて良かったと思う。

園見学を通して、発育発達上、さまざまな配慮が必要なお子さんに気が付いた。対応に当たる先生の気配り目配りは行き届いていたが、もう少し保育者が増えるとより望ましいと思う。

園小接続の事を考えると、小学校の先生が評価委員になるのが良いのではないかと考える。

園長・小学校の先生に打診したことはあったが、諸事情で叶わなかった。今後の参考にさせて頂く。

委員B・園児を丁寧に見ているとの感想を持っている。

ただ、先生方が忙しすぎるのでは?と心配する保護者の声を聞いたことがある。

今後、園と保護者との距離をもう少し近づけるような「お手伝い」ができるよう望む。

委員C・保育教育の自己評価結果から、「Ⅱ保育のあり方、乳幼児への対応」の「3. 指導とかかわり」の「③人権を尊重した言葉や態度、かかわり方」の評価が『D』となっているが、大変重要な項目でもあり、また、主任と副主任の先生による評価ということで、非常に気になった。

園長・今年度は、自園において、また、学校法人聖十字学園でも、『不適切保育』について学び合う研修会を開催し、チェックリストを使用して自分(たち)の保育教育を振り返る機会を持った。自分にはそのつもりはなかったがこの対応は不適切保育にあたるのではないかと考えるようになった保育者もあり、改善していきたいと意識している現状を評価した結果である。

委員A・保育教育の自己評価は、個々の先生がなさるのがよいと思う。

園長・2年前まで個人評価としており、近年は保育部、教育部の部ごとに評価してきた。今後の参考にさせて頂く。

委員B・コロナ5類移行を機に、園児が登園を楽しみにするようになってきている。集団ならではの活動や行事、例えば、運動会を全園児で行うことができたという要望が保護者の中にある。

園長・感染症対策を続けている現状では、不特定多数参加の行事開催にまだ、たくさんの課題があると思う。今後の参考にさせていただきたい。

6. 2024年度事業計画(資料5・6 参照)

7. 園長挨拶